



三条北ロータリークラブ週報

ロータリーの夢を 追いつけよう

例会日
1998. 10 . 27
累計 No 582
当年 No 16

国際ロータリー会長 ジェームス L. レイシー 第2560地区ガバナー 富山 富一

会長/落合 益夫
幹事/梨木 建夫
SAA/布川 和雄

例会日/火曜日 12:30~13:30
例会場/三条ロイヤルホテル ☎34-8111 FAX34-8114
事務局/三条市西四日町3-15-34
ヒューマン・ハーバー内 ☎35-7160 FAX33-8972

行事: クラブフォーラム「地区大会報告会」

落合会長、クラブ奉仕(A)佐藤(義)委員長、職業奉仕 外山委員長
青少年奉仕 齋藤委員長

出席: 本日の出席 52名中 37名

先々週の出席率 52名中 52名 100% (前年同期90.57%)

先週のメイクアップ: 10月21日 三条RCへ 大野新吉さん、樋口金占さん、佐藤文夫さん
柄沢憲司さん、小島茂男さん、山口龍二さん
松永昌一さん

22日 加茂RCへ 山上茂夫さん

24・25日 地区大会参加(新潟) 落合益夫、梨木建夫、石丸 進
佐藤義英、梨本清一、外山晴一、米山忠俊
齋藤 正、長谷川恵慈、石川勝行、木宮 隆
早川龍雄、馬場直次郎 (敬称略)

26日 三条南RCへ 梨木建夫さん

ビジター: 三条RCより 渡辺宏策さん

会長挨拶: 落合益夫



今日は秋晴れのさわやかな日とございます。

三条クラブより渡辺宏策さんようこそいらっしゃいました。

今月1日から軽自動車の規格が変わり、ボディが今迄より一廻り大きくなり、好調な売れ行きと報道されています。経済不況のこの時期に本当かと思いますが、やはりどんな商品でも消費者のニーズを捕らえれば不況とは関係なく、売れるものである証明のようですが、真のニーズを捕らえることは大変にむずかしい事と思います。

地区大会が10月23日のゴルフ大会から始まりました。今井ゴルフ同好会長の音頭で山口会員の素晴らしい車と運転で当クラブからも参加してまいりました。早朝からカバナーがクラブハウスの中で皆さんを出迎えておられました。今大会を成功させるべく、努力されている姿に頭が下がりました。羽賀さんが6位に入賞されました。大会二日目には多忙の中多勢の方の出席をいただき感謝申し上げます。ご苦労様でした。

幹事報告： 梨木幹事

- ・三条市ふるさと運動推進協議会より 第16回ふるさと絵画コンクール展示会開催の御案内
期間 平成10年11月1日（日）～3日（火）
会場 三条市体育文化センター3F
- ・富山ガバナーより 公式訪問の御礼
- ・R I 会長より 子供達の為の機会補助金申請について
- ・日本サービスセンターより 11月1日よりロータリーレートは1ドル125円となります

ニコニコボックス：	27日現在累計	255,720円
-----------	---------	----------

落合益夫君 地区大会参加の皆様には誠に苦労様でした。瀬戸内寂聴さんの講演にはいたくきょうめいいたしました。？色々（？）な話でありがたかったです。

梨木建夫君 //

山中正君 本日早退です。誠に申し分けございません。

山崎勲君

西村護君 地区大会参加の皆さんご苦労様でした。

羽賀一夫君 会長が2560地区のゴルフコンペでの私の6位入賞を発表されたので

本間建雄美君 地区大会参加の皆様御苦労様でした。又、BOXに協力有難うございます。

クラブフォーラム： 「地区大会報告会」

落合益夫会長

1998～99年国際ロータリー第2560地区、地区大会が10月24日（土）オークラホテル新潟で、25日（日）は新潟県民会館で新潟南ロータリークラブのホストで開催されました。

富山富一ガバナーからは今年度のテーマ「FOLLOW YOUR ROTARY DREAM」を各クラブ、各ロータリアンが追求して下さいとの話と、国際的な視野では、ロータリー財団と米山奨学会の充実、国内的には地域社会に密着した活動や青少年育成の為の活動に尽力して欲しいとの要請がありました。

古田敬三R I 会長代理からは、本年度R I レイシー会長の「私たちが思いやりの心にあふれていればこそ夢を見続けます。ロータリーの夢は確かな現実の認識と全世界のすべてのロータリアン一人一人の行動に根をおろしているのです。それは空虚な願望や観念ではなく、実際にこの世に於け

した。

この大会で北朝鮮やイラクなどの国にロータリークラブが有ったらか、ロータリアンの中から政治家がたくさん出てくれたら平和が保てるのにと自分勝手に色々思いましたが、これからもこのクラブの社会的使命を色々理解し数多いメンバーの中の一人のロータリアンとして皆さんと一緒に活動させて頂きたいと思います。

会員の声：

人は死を目前にして、そこから逃れようがない事をはっきりと悟った時、何を考えるのだろうか。死を目前にした人は、自分の人生を再構成するものらしい事を聞いた事がありました。さまざまな過去の記憶から自分の本当の人生を織りなしたものを選択して、それを構成するとか。臨死体験者の話を聞いても、息をふきかえすまでの短い時間に彼等のほとんどがパノラマの様に、自分の人生を甦らせていると言う。本当だろうか？

父は先月末に亡くなったが、今に思うが母が言った言葉が気になった。その3日前に、いつもの様に相撲（テレビ）を見ているのかと思ったら、じっとお寺のカレンダーを見つめていた。己の死期を悟った様に思えた。私にはその様な気配は全く気づかなかった。深夜、急変の知らせを受けるや駆けつけた時は、呼吸困難にあえぎながら何か言っていた。父をかかえ口元で聞こうとしたが言葉にならなかった。しばらくして、安心したのか疲れたのか静かに眠入った。これが父の臨終とは思えなかった。主事医に言われたが信じられなかった。

四つのテスト

— 言行はこれに照らしてから —

- | | |
|------------|------------------|
| I 真実かどうか | III 好意と友情を深めるか |
| II みんなに公平か | IV みんなのためになるかどうか |

11月9日例会： （月）（例会日変更）3RC合同例会 18：30点鐘 VIPグランドホール

11月10日例会： 9日に変更の為休会

11月17日例会： ロータリー財団月間 外部卓話 新潟大学教授 石崎誠也様

11月24日例会： 卓話 山崎会員「県央地区の経済動向」

12月1日例会： 年次総会

12月8日例会： 卓話 石川会員「会計理全般に於ける問題」

12月15日例会： クリスマスパティー

12月22日例会： 会員卓話

12月29日例会： 休会